

課題と方向性

①地球温暖化が生物多様性に与える影響の把握

課 題	方 向 性
<p>地球温暖化による個々の生物への影響や生態系の変化及びそれらによる人間の生活に及ぼす影響を実証的データに基づいて把握すること。</p>	<p>温暖化に伴う影響を実証的に把握するため、モニタリング1000の充実などにより長期・継続的な監視体制を強化。その際分布限界、寿命の短い種など影響が表れやすいところに着目することや、温度だけではなく、降水量、海流、塩分濃度等生態系全体に係る情報を幅広く収集したうえでの分析が重要。</p> <p>また、地球規模でのデータ収集のための国際的連携も必要。</p>

②生物多様性保全施策と地球温暖化対策の統合的推進

課 題	方 向 性
<p>わが国の国土の中で、生物多様性保全上、またCO₂吸収源として、重要な役割を担う森林について、その機能を共に十全に発揮させるための保全・整備を一層推進すること。</p>	<p>CO₂吸収源としての機能を高めるための生長力が旺盛な活力ある森林づくりと生物多様性保全の機能を高めるための上層木から下層植生までが発達した豊かな森林生態系の形成は、相互に調和させていくことが不可欠。</p> <p>具体的には、育成林における間伐や複層林化等の健全な森林づくりや、多様な生物を育む広葉樹の導入など森林の再生・回復に向けた取組が必要。</p> <p>里山林の保全整備や保護地域等の森林の保護管理を推進するとともに、奥山の森林から里地里山、都市の緑に至るまでの生態系ネットワークの形成が重要。</p> <p>また、化石燃料の代替エネルギーとして、育成林や里山林の整備・管理によって生まれる資源のバイオマス利用を推進。</p>